

様式（第9条関係）

審 議 結 果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等の名称	第4回益田市老人福祉計画推進協議会
開催日時	令和5年7月4日（火） 13:30 から 15:15
開催場所	益田市役所本庁3階 第1会議室
出席者	別紙名簿のとおり 【出席者】間庭委員、齋藤寿委員、梶浦委員、松本委員、坪内委員、澤江委員、齋藤友委員、齋藤義委員 【事務局】波田福祉環境部長、和崎高齢者福祉課長、高森高齢者福祉課長補佐、鎌谷地域包括推進係長、和田美都地域総務課長補佐、藤本匹地域総務課長補佐、高橋副主任主事
議題	第4回益田市老人福祉計画推進協議会 【議事】 (1) 益田市老人福祉計画策定にあたって (2) 第8期益田市老人福祉計画の取組状況について (3) 第9期介護保険事業計画策定に係る各種調査の実施について 【その他】
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	
傍聴人の数	0人
1 あいさつ	波田部長あいさつ 新型コロナウイルスについては、マスクを外したり対面での会議が可能になったりと状況が変化してきた。島根県の発表では施設でのクラスターなども報告されており、益田市においてもワクチン接種の実施など継続して対応している。 老人福祉計画においては、今年度計画最終年度となっている。第9期計画に向け、本会議においても引き続き皆様のお力添えをいただきながら進めていきたいと考えている。本日はどうぞよろしくお願いいたします。
審議経過 2 議事 【事務局】	(1) 益田市老人福祉計画策定にあつて 当日資料について説明 各法律に基づいて策定している介護保険事業計画と老人福祉計画を第9期では一本化して策定していきたいと考えている。それぞれの協議会で承認いただいたうえで進めていきたい。 今後の本協議会のスケジュールとしては、今年度9月上旬と11月上旬に開催予定。9月上旬の協議会では各種調査の集計結果の報告、

	11 月上旬の協議会では素案を提案しご意見をいただきたいと考えている。
【委員】	以前の計画策定時には、協議会のほかにワーキング(作業)部会が設置されていたが、9 期では部会を開催せず、残りの協議会で素案に対して修正や文言の追加などしていくという認識か。
【事務局】	そのようになる。以前は作業部会のメンバーを広報等で公募し意見をいただいていたが、なかなか応募もない現状もあるため今回は協議会のみで審議していく。
【委員】	見る側も1つにまとまっていた方が分かりやすいと思う。
【委員】	国の介護保険の見直し方針が示されており、保険者の地域デザイン機能の取組(支え合いの仕組み、地域のニーズに応じた工夫など)が内容として盛り込まれている。益田市も地域全体を通した計画を考えてほしい。
	議事(事務局案)について承認
【事務局】	(2) 第8期益田市老人福祉計画の取組状況について 資料1の各取組について説明
【事務局】	1 地域づくり-高齢者を支える地域・家族- (1) 安心して暮らせるまちづくりについて説明
【委員】	①(カ)について、今後は食の確保だけでなく栄養改善にも取り組むということだが、食と口腔も関連が深いため「口腔機能の改善」という文言も入れていただきたい。国のガイドラインにも歯科と栄養について示されている。
【事務局】	口腔機能の維持や管理を行うことで、栄養改善にも繋がっていくと認識している。益田市の配食サービスは栄養改善のほかに見守り支援という目的も大きいので、9 期に向けては一体的に実施していけるよう取り組みを進めていく。文言の追加については検討させていただきたい。
【委員】	①(イ)について、通報等があった場合コールセンターによる電話での確認や対応が主となっている。協力員の確保が難しい方は民生委員が協力せざるを得ないなど負担も大きく、民生委員が不在の地域も増えている。その一方、アルソックなど民間業者は駆けつけも行っており、すぐ対応していただける。本人の安心感や民生委員の負担軽減のためにも、いろいろな選択ができるように委託業者の拡大など検討していく必要があると感じる。
【事務局】	民生委員の負担の大きさは認識している。そのため、令和4年度からは担当ケアマネジャーや包括支援センターからも申請できるよ

	う変更している。いろいろな見守りの仕組みやサービスがある中で、地域の実情やニーズも変化しているため、今後の事業のあり方について検討していきたい。
【委員】	どの会議でも民生委員の負担が大きいという話が出る。負担が大きいと担い手がいなくなり悪循環。地区単位で地域の課題を捉え、支援や仕組みに繋げていけるようなコミュニティワーカーがもっと活躍できるとよい。
【委員】	(キ)について、名簿を作るだけで終わってしまっただけでは意味がない。直近でも大雨の被害があったが、災害の質や地域によって対応も違う。いろいろな状況を想定しながら名簿の活用を考えるべき。また、逆に災害時益田市に避難してくる人などもおられるため医療体制の整備も必要。
【委員】	(キ)について、対象は介護3以上となっているが、介護3以上は施設入所者も多い。在宅で支援が必要な介護1.2の方の対応も必要だと感じる。対象者など優先順位付けが重要。
【事務局】	1 地域づくり-高齢者を支える地域・家族- (2) 生きがいのあるまちづくりについて説明
【委員】	(ウ)について、活動報告など世話人の事務手続きが負担になっている状況。また、様々な事業があるが、実際に高齢者に必要な情報が届いていないことも多い。普及啓発の工夫が必要。
【事務局】	2 健康づくり-介護予防の充実- (2) 住み慣れた身近な地域で展開する介護予防について説明
【委員】	(オ)について、口腔の視点からもフレイル予防は重要。「オーラルフレイル」という文言も入れてほしい。
【委員】	(ア)について、健康づくり活動は今年で13年目。住民主体の健康づくりを展開するために講演会などを開催しているが自分事として参加してくれる人が増えてきている。その一方で働き盛り世代の参加や意識醸成は難しい。若い人へも普及させるためには家族をベースとして、子どもを巻き込んで展開していくことが効果的。健康増進課だけで進めるのではなく、教育部局などと一体的に検討していく必要がある。
【委員】	社会教育支援コーディネーターなど、地域と学校を繋ぐ職種との連携が重要になってくる。協働のひとつづくり推進課などの教育活動には参加者が多いと聞く。市の中で連携している事例はあるのか、
【事務局】	4 認知症高齢者にやさしいまちづくり-認知症に対する支援- (1) 認知症高齢者・家族への支援について説明

【委員】	(ア) と (イ) は前回の会議でも話されているかもしれないが、近年実績がないことに対して今後どのように対応していくかが重要。
【事務局】	今後、ケアマネジャー等への実態調査を実施し、ニーズや現状を把握していく予定。
【委員】	(ア) と (イ) は、ケアマネジャーや介護サービスの充実でカバーできているものもある。今後、高齢者や家族にとって、より使いやすいものになるよう見直しが必要。
【委員】	(ウ) の補聴器購入費助成事業は、難聴対策は認知症予防や介護予防にも繋がっていく。学術的にも注目できる内容なので、補聴器の利用者を長期的にフォローアップしてほしい。
【事務局】	補聴器購入後の利用者に対するアンケート調査からも、「人と会話がしやすくなった」、「地域の行事に参加するのが楽しみになった」などの声がある。事業の目的である認知機能の低下や安心感の向上などに繋げていきたい。
【委員】	最近高齢者が行方不明になるケースも増えている。早期発見できることが重要であり、地域での支援、理解が望ましい。地域で高齢者の方を見守っていけるよう、若い世代への啓発（小中高生に対するサポーター養成講座の開催など）も必要。警察との連携体制も強化できるとよい。
【事務局】	5 意思が尊重される暮らしの保証 -高齢者の人権を守るために- (2) 高齢者虐待防止への取組について説明
【委員】	児童虐待においては、周囲の通報義務の強化がうたわれており、病院などで虐待と疑われる行為を発見した場合には、速やかに通報するよう言われている。高齢者においても、身体的虐待のような目に見える虐待以外にも歯科治療の放棄など広く虐待を捉える必要と責任があると感じる。
3 その他	益田鹿足歯科医師会よりチラシの周知